

市民活動をたずねて

このコーナーでは、様々な活動分野から、地域での市民活動の実践をたずね、紹介していきます。今回は、「科学技術」、「子どもの健全育成」の分野に関わる2つの活動団体をご紹介します。

① NPO法人アジア技術協力ネットワーク

日本の製造業を経験した高度な知識と技量をもった技術者により、新興国であるアジア諸国への環境技術・プラスチックを主体とする製造技術の指導、および人的交流の促進を行い、アジアの相互発展を図ることを目的に活動している「NPO法人アジア技術協力ネットワーク」。今回、理事長の長谷川さんを中心に、活動内容や生きがいなどについてお話を伺いました。

■活動の目的

私たちは昭和35年より、プラスチック関連の技術者が集まり、プラスチックに関する技術勉強会を行ってきました。その後、「プラスチック加工研究会」という団体名で勉強会を行うなか、これからは今まで自分たちが培ってきた知識や技術をもっと社会に役立てたいと思うようになりました。

そして、勉強会だけではなく、NPOとして社会貢献につながる活動をしていこうと、昨年10月に「NPO法人アジア技術協力ネットワーク」を立ち上げました。活動内容は、タイ・ベトナム・ミャンマー・カンボジアなど、アジア諸国の技術者に対して、プラスチックを主体とする製造技術指導をするほか、工場診断・人材育成・安全指導など、アジア企業に対するコンサルタント事業や、日本人の技術指導者の育成も行っています。これらの活動はボランティアで行っており、コンサルタント料や指導料は実費のみです。



NPO法人アジア技術協力ネットワークの皆さん。(右から理事長の長谷川さん、事務局の堀川さん、副理事長の水永さんと松岡さん)

■人材支援

プラスチックは、ペットボトルなどの包装資材、バケツなどの日用雑貨品、パイプ・チューブなどの上下水道、電線、事務機器部品、自動車部品など、様々な工業用途に使用されています。新興国へプラスチックの製造加工技術を伝えることは、それらの国の産業を向上させ、文化や生活水準を上げることに繋がります。

例えば、私たちは「バイオトイレ事業」という、水不足や下水設備が整っていない国に普及させたい取り組みを行っています。バイオトイレとは、汲み取りの必要がない、循環型の水洗トイレのことです。便器の中におがくずを入れ、温度を55度前後に保ち、排便後にスクリーンでかき混ぜる仕組みです。便の中にある微生物がおがくずの隙間にある空気を利用しながら、排泄物を水と二酸化炭素に分解するので、水を使用せず、汲み



ベトナムの工場で、製造技術を指導する様子

取りの必要がありません。更に、古くなったおがくずは、有機肥料として再利用することができます。その他にも、果物栽培の袋がけに使用する「微孔加工フィルム」の普及など、農作物の栽培に役立つ技術や、安全な水が飲める地域を広げるためのプラスチック管の水道技術なども伝えています。

そして、私たちはアジア諸国の産業向上を目指すだけでなく、環境技術についても普及していきたいと考えています。そこで、ペットボトルなどのプラスチックごみを、パレットやベンチ、ゴミ回収容器などへ再利用する技術指導を行っています。

■退職後の生きがい

私たちが指導しているアジア諸国の人々は、皆熱心に技術を習得しようとしています。教える側の私たちも、教えがいがあり、現地の人々と共に頑張っていきたいという気持ちになります。また、今まで企業で身につけてきた知識や技術を活かした社会貢献ができることは、非常にやりがいを感じます。

退職後、社会と接する機会が少なくなり、やりがい・生きがいを失う人は多いのではないのでしょうか。団体をNPO法人化する前は、勉強会が中心だったため、会員をプラスチックに関する知識を持つ人に限定していました。しかし、NPOとして活動し始め、社会貢献を目的としたとき、多くの人に生きがいづくりの場を提供したいと考え、会員の間口を広げました。現在、私たちの会にはプラスチックだけでなく、アルミなどに関する知識のある人や、工業デザイナー、金物屋、用途開発者など、社会貢献したいという様々な製造技術者が参加しています。分野を問わず活躍する技術者が、私たちの活動に参加することで、様々な知識を共有できると同時に、幅広い人間関係をつくることにもつながります。今後も技術的アイデンティティーを持った方に、是非参加していただきたいです。

また、「アジア技術協力ネットワーク」には、下は33歳から、上は84歳まで幅広い世代の方が活躍しています。若い世代にとっても、年配の世代にとっても、お互いが刺激となり、生き生きと活動することができます。私たちの会員は、活動を非常に楽しんでおり、「次はこうしてみよう！」など自主的に取り組む人がほとんどです。

今後は愛知だけでなく、東京、大阪…と活動を広げていき、自分が培ってきた知識や技術が社会に活かせることで、元気に過ごせる生きがいづくりの場を増やしていきたいです。そして、これからも私たちの活動が、自分たちの生きがいとしてだけでなく、社会貢献にもつながるように取り組んでいきたいです。



昨年行われた「プラスチック産業交流シンポジウム」の様子

【問合せ先】

NPO法人アジア技術協力ネットワーク

名古屋市中区千代田4-14-14

TEL:052-321-1686 FAX:052-321-1686

E-mail:d-matsuoka@jeans.ocn.jp

URL: <http://www.pla-kit.com/kit/atcn/index.html>

～科学技術週間～

(4月12日～18日)

科学技術について、広く一般の方々に理解と関心を深めてもらおうと、科学技術の振興を図ることを目的として、政府は発明の日である4月18日を含む1週間を「科学技術週間」としています。